

平成28年度第1回西三河南部西圏域保健医療福祉推進会議

平成28年8月23日（火）

平成28年度第1回西三河北部圏域保健医療福祉推進会議

平成28年8月31日（水）

保健師チーム第2班

熊本地震災害派遣活動報告

派遣先 熊本県宇土市（熊本県宇城保健所管内）

期間 平成28年4月23日（土）～30日（土）

【活動日 4月24日（日）～29日（金）】

報告者 愛知県衣浦東部保健所 主査・夏目恵子

熊本地震発生



右横ずれ断層型
別府-島原地溝帯で発生
(布田川断層帯・日奈久断層帯)

前震

- ・ 熊本県熊本地方
- ・ 平成28年4月14日21時26分
- ・ M6.5 最大震度7

余震 4月15日0時3分
M 6.4 最大震度6強

本震

- ・ 4月16日1時25分 -前震から28時間後-
- ・ M7.3 最大震度7 (西原村、益城町)

余震 4月16日3時55分
M 5.8 最大震度6強

以降

- ・ 熊本県熊本・阿蘇地方、大分県
- ・ **最大震度5弱以上が計18回**
- ・ 震度1以上の余震は1,500回超

国土地理院ホームページ 平成28年熊本地震に関する情報
気象庁ホームページ 平成28年5月13日地震調査研究推進本部地震調査委員会資料 より作成

愛知県の保健師派遣

厚生労働省からの要請連絡

4/16 (土) 照会

4/17 (日) 派遣先決定

宇土市：4/19～5/22 (活動日)

御船保健所：6/1～7/1

【チーム編成】

保健師 4名、事務職 1名 * 中核市と協力

【1チームごとの派遣期間】

6泊7日 (移動日を含む)

(1チームごとの現地活動期間：4泊5日)

* 第2班以降は、活動の引継ぎを効率的かつ円滑に行うため、1チームをA・Bに分け、一日ずらして活動

【活動内容】

保健師 ①被災者の健康相談・健康チェック ②避難所の衛生対策

事務職員 ①業務調整 ②車の運転 *第2班は食品安全を通常の業務とする獣医師

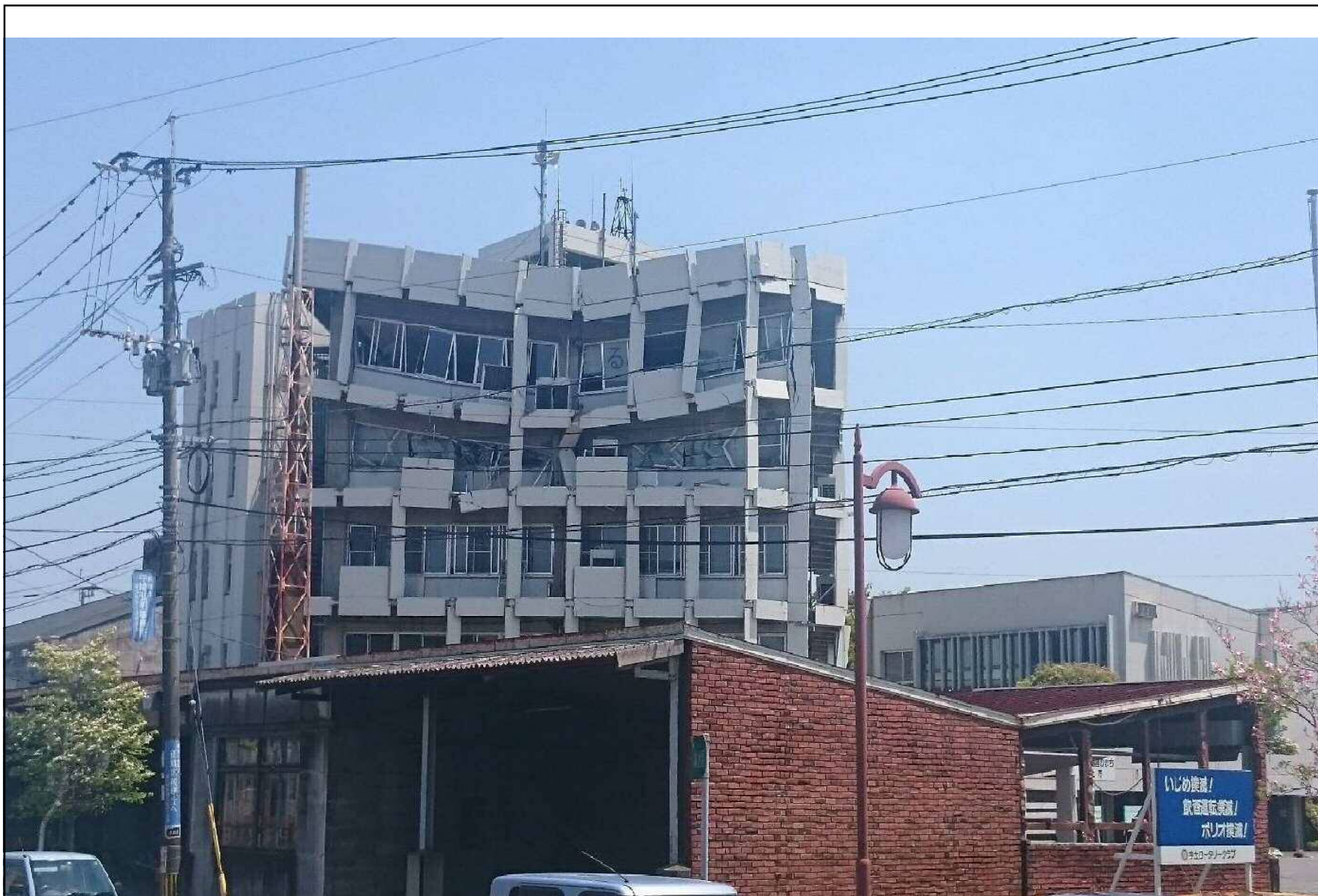
4/18 熊本市 住宅駐車場
エコノミークラス症候群死亡1人

4/23 南阿蘇避難所
ノロウイルス感染症25人

5/6 熊本市避難所
食中毒? 23人

4/18 宇土市グ
ループホーム
関連死1人

| | | 平成28年 | 20日 | 21日 | 22日 | 23日 | 24日 | 25日 | 26日 | 27日 | 28日 | 29日 | 30日 |
|-----|---|------------------------------------|-------|-----|-----|-----|-------|------|------|------|-------|-------|------|
| | | 4月19日 | (水) | (木) | (金) | (土) | (日) | (月) | (火) | (水) | (木) | (金) | (土) |
| | | 4日目 | 5日目 | 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 | 11日目 | 12日目 | 13日目 | 14日目 | 15日目 |
| 第1班 | | 移動日 | 活動1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 移動日 | | | | | |
| 第2班 | A | 4/19 宇土市 14日から車中泊 肺梗塞死亡1人 (86歳) | | | | 移動日 | 活動1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 移動日 | |
| | B | | | | | 移動日 | 活動1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 移動日 | |
| 第3班 | A | | | | | | | | | 移動日 | 活動1日目 | 2日目 | |
| | B | | | | | | | | | | 移動日 | 活動1日目 | |



宇土市役所（建て替え計画が進行中であった） 立ち入り禁止で書類が取り出せない



市役所機能を総合体育館内に 救護所、物資置場もあり

熊本県宇土市（派遣先）の状況

熊本県宇土市 人口推計 37,053人 高齢化率 27.7 (平成27年10月1日現在)

世帯数 13,284世帯

年間出生 321人 死亡 393人

熊本県ホームページ「熊本県の人口と世帯数（年報）」より

【ライフラインの状況】

電話 問題なし

ガス 問題なし

電気 本震後一部地域で停電あり一問もなく復旧

水道 給水制限→4/23復旧

【道路・交通状況等】

所々陥没、橋梁倒壊あり

市役所庁舎損壊あり

古い家屋の屋根瓦の落下が多くあり

* 建物被害（途中集計）^{5/5現在} 全壊 214件 半壊 899件（一部損壊 636件）

罹災証明件数（一部損壊は4/28現在）

【避難者数合計】

| | H28. 4. 21 (木) (9:30) 本震後 5 日経過 | H28. 4. 26 (火) (21:00) 本震後 10 日経過 |
|----------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| 避難所開設数 | 14 箇所 | 11 箇所 |
| 避難者合計 (非公式避難所を除く) | 3,021 人 | 513 人 うち屋外110人** |
| うち最多避難者数 | 宇土小学校 650 人 | 同左 172 人 |
| 最少避難者数 | 住吉漁協 80 人 | 花園小学校 7 人 |

* 合計最多 3,956人 4/20 am9:30 他、非公式避難所あり

** 車中泊者多数 (自宅駐車場を含まず)

○宇土市保健センター

計画：福祉避難所

実際：一般避難所と同様の状況

今後
一般避難所 5 箇所、
福祉避難所 1 箇所 に集約化

「避難は車へ。子供の声が迷惑になるといけないから。」3歳児健診より
「自宅は壊れていないけど、余震が大きかったらと（心配で）、車へ。」



避難所の様子 布団の持ち込みあり 段ボールベッド要請中
* 土足避難所 1 か所あり

【物資配布状況】 第1班、2班 引継ぎ書等より

本部（市民総合体育館）にて配給及び各避難所に配布

| 物資種類 | 充足状態 |
|----------|--|
| 飲用水、食料品 | 早期に充足 |
| 消毒液、衛生材料 | 初期には不足 徐々に充足 次亜塩素酸ナトリウム消毒剤、ペーパータオルは一部不足 |
| 粉ミルク | 「保健センターにあったものでぎりぎり足りた」 (保健センター保健師より) * 母乳分泌がとまった母親あり * 保健センターに授乳室設置 |
| ブルーシート | 常時不足 * 屋根瓦落下のため？ |

避難所により偏りありー連絡調整あり

中高生ボランティアによる配布の協力あり

【住民連絡窓口】

- ・ 市役所庁舎の損壊により、総合体育館、保健センター内へ分散
市職員「喉から手が出るほど書類を取りに行きたい」データのバックアップはある
住民「入園申請の書類を出していたんですが、もう一度出してと...」
- ・ 避難所-市の職員は8時間交替で在駐
宮崎県、沖縄県派遣チームが夜中も交替で担当

「3日目から来てもらえて助かった」保健センター（福祉避難所→一般避難所）管理職

【生活状況】

前震、本震と震度7の揺れが繰り返したこと
以後も余震がほぼ絶え間のないことからの不安

- ・ ライフラインはほぼ問題なしへ
- ・ 余震が持続しているため、夜間に不安で眠れない、眠ることで避難できなくなる
ことの不安から、眠るために処方された薬剤を服用できずにいる
- ・ 夜間のかすかな余震の音で目が覚めると眠れなくなる。内服するが朝方にしか
眠れず、朝起きるのがつらい
- ・ 子どもに変化有 親から離れられない、赤ちゃん返りなど
- ・ 車中泊者が多い
- ・ 避難生活が長期化しつつある
- ・ 避難所避難者 生活不活発状態
配給食材と基礎疾患・内服薬の関係
- ・ 通院バスの運行休止などにより、通院に支障が出てきている
- ・ デイサービス（介護保険サービス）は、本震後5日後には再開しているところ
があった（4/26難病患者の状況把握より）
- ・ 賃貸アパートの市内の空きがなく、周辺の市町村を探している

【要配慮者等の状況】

- 人工透析患者：特に問題なし（対応済み） 地元医師会医師より
- 在宅酸素：酸素濃縮器等使用者－特に問題なし 〃
停電は一部の地域で極短時間
- 人工呼吸器使用者：確認済み 厚労省資料より 宇土市に何人？業者の確認？
- **精神障害者：避難所で暴れる事例あり－（措置）入院へ**
4/25 時点（本震から10日）で宇城保健所管内で10人対応
* 保健所精神保健担当職員は精神障害者の入院対応におわれた
（宇城保健所管内：宇城市、宇土市、美里町 H27.10月管内人口 107,175人 ）
急性期の精神科救急の課題あり
- 在宅の要配慮者の確認の進捗がわかりづらい
地域包括支援センターによる確認あり
4/24頃 民生委員へ確認依頼あり
避難行動要支援者名簿はあった？
介護保険サービス開始事業者あり

避難所への支援と在宅療養者の確認

<参考>

エコノミークラス症候群入院患者数（全体）

（主要医療機関20か所の集計）

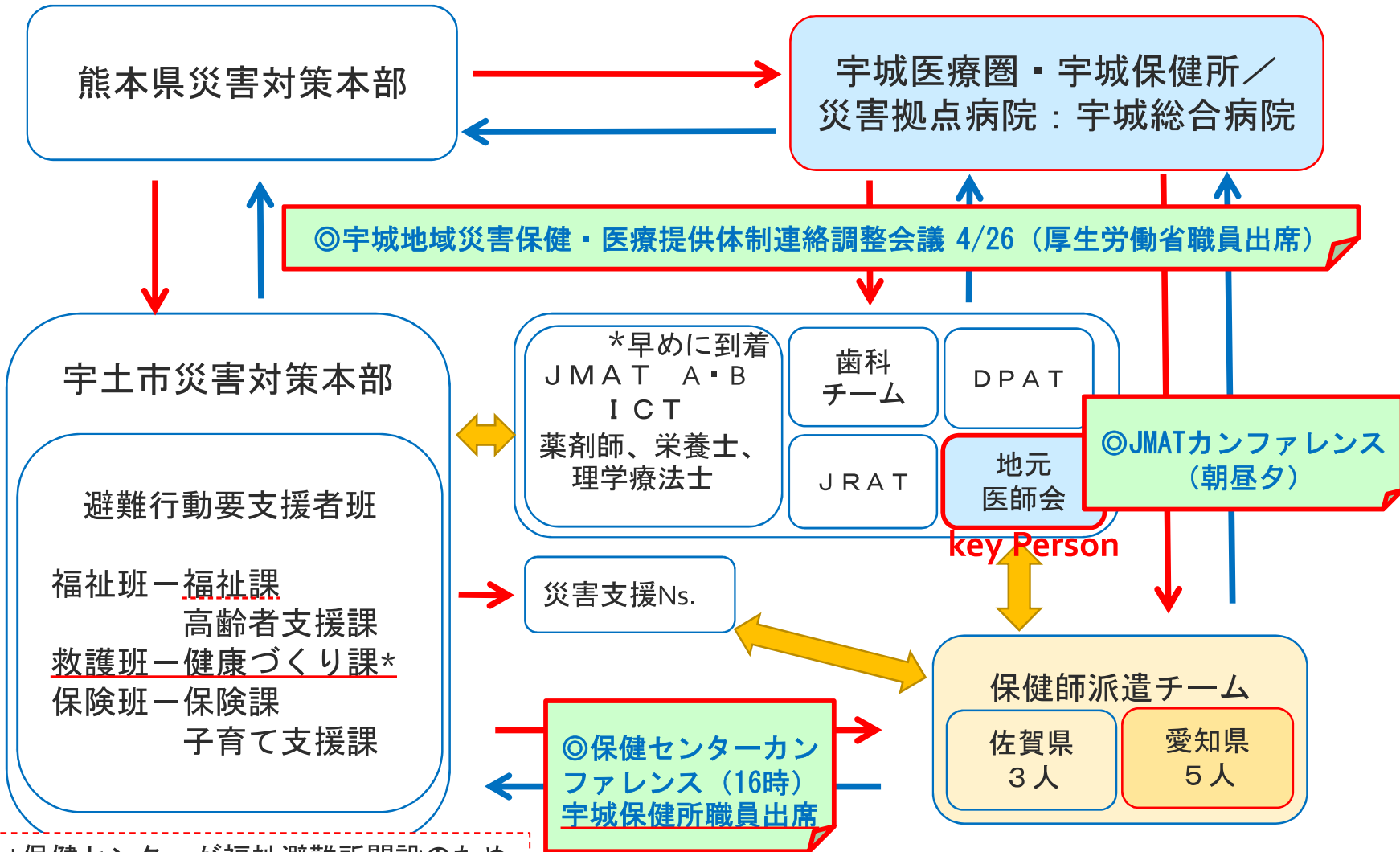
4/24時点 35人（男性6人女性29人）

7/21時点 52人（男性12人女性40人）

熊本県ホームページ（報道資料）より

保健医療支援活動の体制

「自然災害時における亜急性期保健医療活動マニュアル」P.8
 図1. 被災地における保健医療活動体制の一例 を参考に作成（夏目）



*保健センターが福祉避難所開設のため
身動きとれず、福祉課保健師が対応
—福祉課の初動用務は？

避難難行動要支援者の確認状況は？



フットワークの軽い
本多先生の移動手段

地元医師会とJMAT 朝・昼・タカンファレンス



宇城保健所 宇城地域災害保健・医療提供体制連絡調整会議（H28.4.26）

活動内容

(1) 避難所（トイレの）衛生管理と吐物処理に関する技術的指導 土足禁止の徹底指導

災害支援Ns. 避難所職員に対する指導

JMAT-ICT帯同あり

ポスター検討、作成手配

* 宇城保健所、宇土市保健センターの協力

地元医師会から教育委員会へ調整

(2) 在宅の要配慮者の確認

療養状況等の把握と、医療継続に関する調整（電話、家庭訪問）

① 宇城保健所から提供された難病患者リスト（44名-人工呼吸器使用記載1名）

② 民生委員からの相談ケース *佐賀県保健師チーム対応

(3) 保健センターの通常業務の再開支援

避難所居室として使用の健診会場消毒（次亜塩素酸ナトリウム希釈剤）

避難所の食料に関する調査—事前準備、調査票配布 *宇城保健所調査

惨事ストレスへの配慮策について調整—対応、DPAT協力要請

活動上の課題

(1) 指揮調整部門との情報交換

(2) E M I S の情報活用

D M A T が情報入力 * 情報の活用と継続

(3) 避難行動要支援者名簿の活用

(4) 平常時に確認・準備・訓練しておけることが多い

例) 救護所設営

避難所運営 (訓練) * トイレ掃除、土足禁止等打合せ

福祉避難所設営

受援準備 * 情報の共有方法

職員の資質の向上